

福島の、あの日から。今を見つめるレポート

2022年12月1日現在、日本の原発稼働は西日本にある7基です。安全の確保が保障されない・住民に稼働に対する不安が大きいなどの理由で、廃炉決定や停止中の原発が52基あります。世界の歴史に残る最悪レベルの原発事故の被害に翻弄され続けている一方で、未来の社会像の実現が進む福島に、先月末3日間をかけて訪問してきました。みなさんにその現状をお知らせいたします。(校長)



訪問地 浪江町→双葉町→楢葉町

今回の訪問地は原発から20km圏内の地図の4・5・8の3町で、現在も帰還困難区域を残している町が含まれています。避難が解除されても人々の多くは戻っていません。

福島第一原子力発電所

例えば、浪江町では町民16,204人中帰還している人は1割程度の1,788人です。

福島第二原子力発電所

戻れる地域は増えても戻らない住民たちの理由は「家が汚損・劣化し住める状態でない」「原子力発電所の安全性に不安があるから」「宅地・農地以外の山林や河川等の除染がまだだから」「避難期間が長く、すでに避難先で生活基盤ができたから」です。

④ 浪江町

2017年3月31日解除
(帰還困難区域を除く)

⑤ 双葉町

2020年3月4日解除
(避難指示解除準備区域
及び帰還困難区域の一部)

⑧ 楢葉町

2015年9月5日解除

それぞれの、町を訪問した理由は、復興途上で、町も、企業も、住民も、様々な形でSDGsに取り組む姿を学ぶためです。その実態を裏面に紹介します。

浪江町立請戸小学校の未来に向けた学び

この小学校は海が見えるところにありながら、ある生徒の避難誘導の知恵が、全員を無事に避難させた奇跡の学校とされています。校舎の1階は全壊。その状態をそのまま震災遺構として残しています。現在は、2階の教室で学校生活を行っています。生徒たちは、目には見えない「放射線の知識」を学び、長期的な健康調査を受けながら、未来に向けての防災についての学習を行っていました。



アケワマインふくしまのSDGsは！

この水族館には震災後まもなく訪問しています。復興・再生後の姿は「環境水族館」の名の通りです。



この写真は何かわかりますか？

海のプラスチックごみを食べて、どんどん大きくなる怪獣です。この水族館は海にあふれるプラスチックごみで危機にさらされている海の生き物の実態を、飼育員の救済活動と共に伝えています。日本はプラスチックごみ排出量世界3位。1人当たりの排出量は世界2位。マイバック以外にもできる事がある！

しろはとファームの未来の農業

2017年、原子力災害から、農業再生に向けて、営農モデルを確立して強い農業経営を育成する計画を復興支援事業として展開し、着々と進めている企業です。荒廃した檜葉町の土地で、今、人気のサツマイモ商品の製造を、苗づくりからはじめ、超大型トラクター・ドローンやロボットでの耕作を進め、巨大なサツマイモ貯蔵施設もある未来型農業システムを作り上げています。セブンのスイートポテトを製造している企業です。



未来の星空を守る取り組み

光害についての意識を高めることが、美しい星空を守るだけでなく、動植物の生態系を守ることにつながることをみんなに知ってもらう活動も天文台で進められていました。



笑ふるタウンならは

被災者が住み続けられる町づくりが進められていました。コンパクトな地域に居住・医療・商業・教育・交流ゾーンが徒歩圏内に建設され高齢者に優しい町になっていました。